

ワーキングホリデーに参加し、農作業を手伝う大塚さん(左)と受け入れ農家の濱田さん夫妻。「すっかり美里町のファンになりました」と大塚さん(美里町大塚美津代さん提供)



ふーどカ

ワーキングホリデー

都市の住民が本格的な農業体験をする日本版の「ワーキングホリデー」が注目されている。県内でも、県宇城地域振興局が2008年、新たに制度をスタートさせるなど広がりを見せている。手軽な農作業や自然を楽しむグリーンツーリズムから一歩踏み込むことで、消費者と「農」との関係がより深まり、相互理解が進むことへの期待は大きい。(峰松清子)

ワーキングホリデーは、本来は2国間協定に基づき、海外で最長1年間、滞在費を稼ぎながら異国の文化や休暇を楽しむ制度のこと。「日本版」は、農業に関心を持つ都市部の人と繁忙期の手助けが欲しい農家を結び、補い合う援農的な取り組みだ。

昨年11月、宇城地域のワーキングホリデーに参加した熊本市の大塚美津代さん(50)は「農業に興味があり、食べ物がどのように作られて店頭に出るのかわかりたかった」。ここでは、参加者が無償で働き、農家は宿泊と食事を提供する。09年度の受け入れ農家は7軒で、県内の20人が参加した。

大塚さんは美里町の濱田精一さん(70)、チズ子さん(68)宅に3日間滞在。寝食をともにしながら、タマネギの植え付けと収穫、洗浄、袋詰めなどを体験し

都市住民が農業体験

相互理解の深まり期待

日本版の独自のワーキングホリデーの仕組みを作り上げたのは長野県飯田市だ。農業に関心のある人と、農繁期の手助けを必要としている農家を結びつける援農ボランティア制度である。

この制度ができてから12年になる。現在、飯田市内にワーキングホリデーの登録をしている人は約1300人。毎年約500人が農作業に参加している。受け入れられている農家は92戸にもなる。窓口は市役所の農業課で、受け入れ農家と参加者双方の要望を調整する。

この制度、実は果樹農家

金丸弘美の地域リーダー

新しい形の交流 地域に活力

飯田市の原博之さん宅から始まったものだ。

飯田市は市田柿という干柿が特産品だが、秋から暮れにかけて干柿作りは超多忙になる。たまたま原さんの多忙な様子を目にした日本道路会(当時)の職員が、休日の暇な時に手伝いしようとして申し出たことがきっかけだ。それならばと手伝いを頼み、作業のあと食事を提供してもらった。

その経緯を知った、東京で情報誌の仕事に携わる原さんのいとこが、紙面で援農ボランティアを募集してみたところ多くの反響があったのだ。

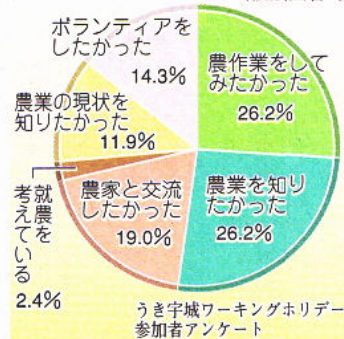
そこで飯田市が、これを制度化してみようと乗り出した。しかし最初は、農家も「農作業の手伝いを無償

でやりたい人などいないだろう」と思っていたという。ところが募集広告を出してみると、参加希望者が多くあることがわかった。そして、すっかり定着するまでになったというわけだ。

当時の農業課でこの制度を立ち上げ、現在は地域づくりのアドバイザーをする井上弘司さんは「ワーキングホリデーの参加者から、新規就農者が5組、定住者も2人生まれました」と喜ぶ。これまで考えられなかった、農家の民泊やワーキングホリデーという新しい形の交流が、地域に活力をもたらしているのである。

この援農制度は、全国各地に広がり始めている。(食環境ジャーナリスト)

ワーキングホリデー参加理由 (複数回答可)



当初は自宅への受け入れに当惑していたというチズ子さんも「自分の仕事として頑張ってくれる。家族みたいに話すのが楽しい」とうれしそう。大塚さんは「消費者が好むよう、洗



て出荷するなど農家の努力を知りました」と感慨深げだ。

現在も、休日は友人の緒方美春さん(48)を誘い、濱田さん宅で農作業を手伝う。「すっかり美里町のファンに。知人にも町や農産物をPRしています」。

農村にとっては、補充労働力にとどまらない、信頼のおける顧客の確保にもつながっている。

02年からワーキングホリデーを実施する多良木町では、受け入れ農家と参加者が雇用者契約書を交わし、日

当を支払う仕組み。参加者は民泊ホテルに宿泊する。これまでに県内外から計14人が参加したが、09年度の

受け入れはなかった。参加者と農家の調整を担当する同町企画観光課は「報酬を払うため質の高い労働を求める声もあり、農家のニーズとの調整が難しい」と話す。

県立大の明石昭久教授(公共経営学)は、1998年から続く長野県飯田市のワーキングホリデーを体験。同市では、参加者の労働力を作業予定に組み入れるまでに定着しているという。また、農家の女性対象の学習会やネットワーク作りで、受け入れ側の意識を高める工夫が見られた。

同教授は「息の長い取り組みにするためには、年間を通じて切れぬ作業メニューの提供と、受け入れ農家の積極的なかわりを促す仕掛けが必要だ」と指摘する。

11月1日掲載